

令和6年度 北九州市 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会で活躍し、北九州市と世界の架け橋となる人材の育成

- 授業における、児童の英語による言語活動時間の割合 R5 94.4% → R6 95.0%以上を目指す
- パフォーマンステスト実施ありの学校の割合 R5 92.1% → R6 97.0%以上を目指す

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 児童の英語による言語活動時間の割合が昨年から変わらず、高い割合となっている。
(R4:94.5%⇒R5:94.4%)
- ② 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況が改善している。
(R4:51.6%⇒R5:64.3%)
[設定]

未だ改善が必要な点

- ① パフォーマンステスト実施ありの学校の割合が減少している。
(R4:98.4%⇒R5:92.1%)

2. 要因分析

- ① 教育センター主催の研修、指導主事の訪問・指導助言などにより授業が改善した。また、教科等教育研究部会や市内小学校英語教育研究会、英語教育リーディングスクール（推進校）での公開授業研究会において先進的な取組を公開し、研修を実施したことで、指導方法が継続して改善していると考えられる。
 - ② 教員限定サイトへの市独自のCAN-DOリスト（各校でアレンジ可能）掲載や、研修での周知により改善していると考えられる。
- ① 丁寧な個別指導や補充的な指導の時間を多く確保した結果、学期末のパフォーマンステストの時間が十分に確保できなかったと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

① 「北九州市型外国語教育」の推進 小学校低学年からの9年間をとした外国語教育

- 小中で一貫した目標をもち、小中の教員が互いに連携しそれぞれの段階で適切な目標をもって指導にあたる
- 英語を学ぶことにワクワクし、自分から取り組む児童（英語大好きキッズ）を育成する
- 児童が自分の考えや気持ちを英語で表現するアウトプットの場面をこれまで以上に充実させる



「北九州市型外国語教育」の推進

- 特徴 1 小学校低学年からの指導「英語大好きタイム」
2 各段階における工夫した言語活動の充実
3 小中連携・接続を意識した授業「つながりタイム」

◇令和6年度 外国語教育リーディングスクール（推進校）

先行実施・教師向けハンドブック改善

◇令和7年度 全小・中学校（希望する特別支援学校）での実施

① 「北九州市型外国語教育ハンドブック」を活用した研修・外国語科主任研修・公開授業研究会の実施

- ・「北九州市型外国語教育ハンドブック」を活用したパフォーマンス活動・テストをリーディング校で先行実施、効果の検証、全小学校への研修、周知
- ・学習者用デジタル教科書の活用方法の周知
- ・英検ESGの全校実施による指導の改善
- ・教員採用試験における一定の英語力を有する者への優遇措置 ・中学校から小学校へ専科教員の配置

令和6年度 北九州市 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会で活躍し、北九州市と世界の架け橋となる人材の育成

- CEFR A1レベル以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 R5 48.3% → R6 50%以上を目指す
- 授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合 R5 66.7% → R6 75%以上を目指す

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 生徒の英語力の状況が改善している。
(R4:46.9%⇒R5:48.3%)
- ② R5全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、授業改善が進んでいる様子が見られる。
- ③ CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が増加している。
(R4:37.2%⇒R5:42.6%)

未だ改善が必要な点

- ① 授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が減少している。
(R4:69.4%⇒R5:66.7%)
- ② R5全国学力・学習状況調査の教科の結果から、話すこと、書くことなどのアウトプットに特に課題が見られる。
書くことの平均正答率 17.5%

2. 要因分析

- ① 教育センター主催の研修、指導主事、メンタリング教員の訪問指導・助言などにより授業が改善したと考えられる。
 - ② 教科等教育研究部会や市内中学校英語教育研究会、英語教育リーディングスクール（推進校）での公開授業研究会において先進的な取組を公開し、研修を実施したことで、指導方法が改善したと考えられる。
 - ③ 新規採用教職員の採用試験時の資格による優遇措置、教員の英語力と生徒の英語力の相関に関する周知などにより改善したと考えられる。
- ① 言語活動について、即興性・やり取りに特化した活動は多く行われているが、まとめた英語で自分の考えや気持ちを表現する活動について改善の余地がある。
 - ② 話したり、書いたりする活動について生徒へ効果的なフィードバックを行う方法についての周知が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

① 「北九州市型外国語教育」の推進 小学校低学年からの9年間をとした外国語教育

- 小中で一貫した目標をもち、小中の教員が互いに連携しそれぞれの段階で適切な目標をもって指導にあたる
- 英語を学ぶことにワクワクし、自分から取り組む児童（英語大好きキッズ）を育成する
 - 児童が自分の考えや気持ちを英語で表現するアウトプットの場面をこれまで以上に充実させる



「北九州市型外国語教育」の推進

- 特徴 1 小学校低学年からの指導「英語大好きタイム」
2 各段階における工夫した言語活動の充実
3 小中連携・接続を意識した授業「つながりタイム」

- ◇令和6年度 外国語教育リーディングスクール（推進校）先行実施・教師向けハンドブック改善
- ◇令和7年度 全小・中学校（希望する特別支援学校）での実施

①②「北九州市型外国語教育ハンドブック」を活用した研修・外国語科主任研修・公開授業研究会の実施

- ・「北九州市型外国語教育ハンドブック」を活用した単元ごとのパフォーマンステストと適切なフィードバックをリーディング校で先行実施、効果の検証、全中学校への研修、周知
- ・学習者用デジタル教科書の活用方法の周知
- ・英検IBAによる学習状況把握と学習改善・指導改善
- ・スコア型英語4技能検定の一部実施（中学2年）による学習状況の分析と市全体に向けた指導改善

令和6年度 北九州市 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会で活躍し、北九州市と世界の架け橋となる人材の育成

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合50%を目指す
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合10%を目指す

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ① 授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が増加した
(R4:50%⇒R5:75%)
 - ② CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加している。
(市立高は一校のみのため非公開)
 - ③ 英語担当教員の授業における英語使用状況が改善している。
(R4:44.4%⇒R5:75.0%)
- ① 小中学校との外国語教育での連携が進んでいない
- ② ALTの参画について、効果的な活用方法や、活用率について、改善する必要がある

2. 要因分析

- ①③ 福岡県主催の研修、本市指導主事の訪問・指導助言、校内での研修等を通じて、指導が改善したと考えられる。探究学習支援アドバイザーの指導助言により授業改善が進んだことが考えられる。
 - ② 言語活動時間の割合の増加や、パフォーマンステストの実施回数の増加、適切な実施方法での実施によって改善したと考えられる。
- ① 校種間の教員同士で指導内容や指導方法・教材等を共有する研修などの場が限られているためと考えられる。
- ② A L Tについては、授業やクラブ活動などでの多様な場面で活用されている一方、外国語授業での活用については、単元の計画段階での打ち合わせ時間の確保が進んでいないため、活用場面が限定的になる傾向がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 「北九州市型外国語教育」の推進
 - ◎ 英語を学ぶことにワクワクし、自分から取り組む生徒を育成する
 - ◎ 生徒が自分の考えや気持ちを英語で表現するアウトプットの場面をこれまで以上に充実させる

↓

「北九州市型外国語教育」
(小中 9 年間を通し、アウトプットを重視した外国語教育)を推進する。

 - ◇令和 6 年度 英語教育リーディングスクール(推進校)先行実施・内容の改善
 - ◇令和 7 年度 市内全小中学校で実施

現在高等学校は北九州市型外国語教育のハンドブックでの指導案は設定していないが、長期的目標として高等学校も含めたカリキュラムを作成していくことを検討 アウトプット重視の指導を推進

- ① 地域の小中学校との連携を図る
(教員同士の情報交換、児童生徒の交流活動、1 2 年間で育む英語によるコミュニケーションの資質・能力の共有)
- ①② 研修の機会の充実
 - ・英語教育リーディングスクール公開授業研究会(北九州市型外国語教育ハンドブックを活用した授業)への高校教員の参加を促進
 - ・福岡県外国語指導助手(JET-ALT)の指導力向上研修への参加促進
 - ・指導主事、探究学習支援アドバイザーの訪問、指導助言

北九州市教育委員会

北九州市教育委員会管轄の高等学校は1校のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）											
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）											
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60	75.0	75		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50	75.0	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	0	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	100	100		100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		75	75.0	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	48.3	50		60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	66.7	75		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	77.4	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	93.5	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	87.1	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		45	42.6	45		45		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		80	63.8	70		75		80		85	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	60	64.3	70		100		100		100	
		公表（％）	30	32.5	40		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	60	57.1	70		100		100		100	